

新著紹介

○日本遣歐使者記

グワルチエリ著 木下杢太郎譯

岩波書店出版 昭和八年三月

定價 二圓三十錢

本書は一昨年四月に濱田博士がかゝれた天正遣歐使節記に詳述された大友・有馬・大村の三公子がローマに使した旅行記一五八六年のローマ版を丁寧に翻譯されたもので、四六版二一七頁の冊子であるが、一讀卷を措くことが出来ない。當時の宣教師共がいかん日本人を理解してゐたか、十五歳に近い三公子をいかに厚遇したかといふ事を知るだけでも、この上もない資料であると信ずる。(藤田)

雑報

○支那産生漆

本邦内地にて需要せらるゝ生漆の八割方は支那より輸入せられ、其大部分は漢口を中心として取引される、支那漆は揚子江沿岸各省及南支那一帯に産出するも、主として貴州省東北部より四川湖北兩省の境界線を北に陝西南部に亘る帶狀を畫きたる地帯を特産地とする、其品質は日本産に劣るも、價格低廉なる爲め、諸漆器車輛の塗料、金物の燒着、又は防錆に用ひられ、漢口より一年に一萬五千擔乃

至二萬擔、價格百萬海關兩乃至百七十萬海關兩に達する、しかし近年佛領印度支那から安物漆が多量に輸入されて昭和七年には支那漆一萬二千擔に下つた、今支那に於ける漆の産地を各省別にのぶれば左の如し

湖北省施北地方

七、八千擔

同建始地方

四、五千擔

陝西省平利地方

二千擔

四川太寧及湖北、興山房縣地方

三千擔

湖北竹山、竹溪、及陝西興安地方

四千擔

湖北省、鄖陽地方

二、三千擔

四川省彭水地方

三千擔

同會陽、秀山、潛水地方

六千擔

貴州省銅仁地方

二千擔

施南地方のものは、萬縣に出廻り、汽船にて漢口に達するものと、陸路宜昌に出るものとあり、本邦へ輸出するものは色合淡黄、純分六、七割にして乾燥容易するもの五、六千擔に達する、建始地方のもの之につき純分五割五分乃至七割、太寧興山房縣の産と共に巫山又は巴東より民船にて宜昌に集るもの多く更に漢口に出廻るを例とす、鄖陽、竹山、竹溪、及興安平利の産は從來老河口をへて民船にて漢口に集まりたるが、近來漢水筋に共匪の危険ありて、陸路平漢線許昌に達し、同地より汽車便にて漢口に送られることゝなれり。支那の漆樹は主として地山に苗植し、移植後七八年にして

探液、三四年をへて尙探液の見込あるものは一二年休止、元氣回復をまちて更に採取する、十五、六年以上の老樹は品質不良である、採取には毎年春末初夏の頃、樹幹二尺位の箇所縦の切傷を付け、貝殻等を取付けおき、翌日それに溜つた液を小箱に集め運搬と輸出は樽詰にする、大正五、六年の好景氣時代には老河口、興山、房縣、施南、建始、銅仁地方に本邦人の出張買付、資金貸付等までやるものがあつて、相當有利であつたが、多くは貸倒れ、經費倒になるもの多く、又地方不安のため、昭和三年頃から支那漆問屋が買付けた品を取引するやうになつてゐる。

○柳多島國際人道橋落成

咸北慶源郡安農面新開洞地内柳多島に架せられた人道橋は日・滿・露三國々境の交通の關門に當り、國際橋として重要な使命を有するものであるが、木造板橋(長三六〇米幅員五・四四米)の架橋を完成し、四月三日當永咸北知事を始め、日滿官民三千餘名參列の上、盛大なる渡橋式を舉行した。(朝鮮)

○敦圖鐵道開通

吉敦線の終點敦化より間島を経て、北朝鮮圖們江岸南陽の對岸、灰幕洞を終點とする延長百八十軒の敦圖線は、南陽・灰幕洞の國際鐵橋(二月六日試運轉)・小盤嶺トンネルの開通によつて完成し、こゝに鮮滿を繋ぐこととなり、四月二十日葦子溝に於て、日滿兩國代表列席の上、盛大なる開通式が舉げられた。

本線は今日所謂北廻線と稱せらるゝもので、滿洲中部縱貫線は、明治四十二年敷設權獲得以來その實施を見るに至らず永年待望しつゝあつた處であるが、昭和六年十二月間島興潭礮子に測量の第一歩を入れた滿鐵測量隊は、同地にあつた王德林軍の爲技師二名を射殺され、最初の工事犠牲者を出すなど、匪賊の妨害襲撃と戦ひつゝ測量を終へ、同七年四月の解氷期から滿鐵の請負で、滿洲國正規軍や日本領事館警察隊護衛のもとに、大強行工事をつづけ、遂に竣功を見たものである。

敦圖線の開通に依りて中部滿洲を縦貫し、新京より敦化・朝陽川・局子街・灰幕洞を経て國際鐵橋を渡り、圖們線に接続して北鮮雄基港に通ずる國際的大幹線が完成し、八月一日より一般貨客の運輸開始を見る豫定であり、今や兩國の軍事・經濟・産業・文化の上に一新時期を劃することとなつた。

尙ほ上三峰より龍井を経て、中央線にて接続する所謂南廻線の起工輸入式は、四月十九日龍井停車場に於て盛大に行はれた。

更に敦賀北日本汽船會社雄基及び清津寄港が四月六日より實現し、又大阪商船會社の清津・雄基・羅津寄港が五月十二日開始されることになり、北鮮港灣はこゝに國際化され、日滿兩國の距離は著しく短縮さるゝに至つたが、將來羅津港の完成の上は、東京・新京間の距離は、大連經由に比し半減されることになる譯である。(朝鮮)

○ブリタニカ百科辭典所載「朝鮮」記事の正誤抗議

ブリタニカ百科辭典の最新版たる第十四版に掲載せる「朝鮮」(Korea)の記事(第十三卷、四八五頁—四八九頁)は、其の殆んど全頁が誤謬と偏見で滿されてゐる。記述の事實が甚だしく時代遅れのものが多いばかりでなく、事實上の甚しい誤謬や馬鹿々々しい程の認識不足が至る所に發見され、中には朝鮮の實狀を全く無視した虚構の記述や、爲にせんが爲の宣傳すら少くない。

同百科辭典の内外に認められた權威と聲價より見て、此の記事が讀者を誤り、朝鮮に關する研究に及ぼす不測の影響は看過すべからざるものがあると謂はねばならぬ。

仍て過般、文書課長名を以て同辭典發行所に對し、右記事の全部に亘り主なる誤謬の一々を指摘し、意見を述べ、最近の確實なる資料を供與し改版に際し誤謬の修正を加ふべき様抗議する所あつた、最近之に對し左の如き回答が到着した。

拜啓

一月二十五日附貴翰拜承、各種寫眞、英文施政年報並にブリタニカ新版の朝鮮關係記事に關する詳細なる御批評及御教示感謝の至りに御座候

我々は貴下のブリタニカ新版に對する一般の御忠告に對し満足の意を表するものに御座候

而して正誤と補正が必要なりとせらるる貴下の御意見に依

○丹那隧道

延長二萬五千六百十四呎、工事費二千四百七十萬圓、ざつと一呎千圓からの大金を投じて遂に丹那トンネルは出來上らんとしてゐる。出來上れば東海道運轉系統に大變更が加へられることは左の表によつて明である。

國府津沼津間現在線と丹那線との比較表

種別	現在山北線	丹那線
線路延長	三七哩五分	三〇哩三分
水平直線換算延長	七四哩二分	二九哩二分
海面上最高點	一、四九五呎	二五九呎
最急勾配	$\frac{1}{40}$	$\frac{1}{100}$
同上延長	十二哩一分	七哩三分
百分一及以上勾配延長	三一哩七分	七哩三分
最小曲線半徑	二〇鎖	二〇鎖
同上延長	六哩三分	三哩〇分
牽引力の比	一、〇	二、五乃至三、〇

一、車消費石炭の比 三、三 一、〇

運轉時間、三十哩の速 二時三分 一時二〇分

これによつて明なごとく、勾配が平坦に近づき、路線が短くなるならば、時間も速くなる結果、燕にでものれば、京都まで六時半といふことになるかもしれない、もしこの丹那の次に、關ヶ原の五十分一勾配をやめて、鈴鹿山脈に天トネルをつけるといふことになると、京都まで五時間に短縮されることとなるであらう。丹那のトネルの最初の事故は、大正十年四月一日午後四時東口坑内九百九十呎のところで崩壊した爲に三十三名の埋没があつた。この時十七名だけ生存者が助け出された。ついで大正十三年二月十日西口坑内四千九百五十呎附近で斷層線が崩壊したので十六名が溺死した。ついで大正十四年十二月三十日、東口坑内九千三十呎附近で湧水泥土噴出の事故があつて熱海の海灣までが、白く濁つてしまつた。昭和五年六月廿四日にも同一萬一千九十二呎附近で大斷層の崩壊が発生し、トンネル二千三百呎も埋まつたといふ事故があつた。其他長い年月の間に大小無數の災が発生したので、一時はこの線は放棄されるかとも見えた。しかし關係者は大に苦心をしてセメント注入工法とか、シールド式掘進法、又はエアロツク式掘進法などいふ、水底トンネルの工法を採用して、可弱き斷層や、湧水の箇所を征服突破したので、その間の技師の苦心は、筆紙につくされぬ。御蔭で日本の鐵道技術は世界で最も優秀なトンネル工作者になつたと

雜報

いへる。トンネルの開鑿に伴ひ丹那盆地は數多の斷層群より成る桶狀陷落地帯であることが明になつたが、果して丹那盆地の地下水がトンネルの方へぬけてしまつた結果、トンネル上部の丹那村では飲料水や灌漑用水の缺乏に苦しまねばならぬことになつてしまつたのみでなく、更らに丹那川で灌漑される三島町附近一圓の水田の用水を枯渴せしむるに至つてゐるのである。最後にこの地方に頻發する斷層地震に關して、トンネル内部の被害は地表よりも大に少いことが、工事の進行中に經驗されたことを報告しておきたい。

○エチオピアの鐵道

佛領ソマリイのヂブチを起點と

しエチオピアの首府アデス・アベバに至るフランコエチオピアン鐵道は狭軌單線であるが、當國唯一の鐵道で延長四八六・五哩に達し急行で三十時間、普通列車で三日を要する。かく遅いのは普通列車が夜間運轉を停止し、デレダワ又はアワシ驛に泊まるからで、乗客はホテルで一泊せねばならないことになつてゐる。旅客運賃は特等一、一五四・九〇フラン、一等六五八・二〇フラン、二等三一九・五〇フラン、三等九三・六〇フランである。往復切符は五〇％引きであるが、特等に割引はない。

上り時間表

ヂブチ → デレダワ → アワシ → アデス・アベバ

日曜 午前六時半分 日曜 後時半着 月曜 後時 時着 火曜 後時五分着
日曜 前時半發 月曜 前時半發 火曜 前時五分發

三三 七一

○水曜 午前七時五分
 △水曜 午前八時半發
 水曜 後七時半着
 木曜 前八時半發
 木曜 後八時半着
 金曜 前九時半發
 金曜 後九時半着

下り時間表

アデス・アベバ → アワシ → デレダッ → デアチ
 日曜 前九時發
 日曜 午後着
 月曜 午前發
 火曜 午前發
 水曜 午前發
 木曜 午前發
 金曜 午前發
 日曜 午前六時九分發

○印急行列車(急行料金ナシ) 毎年十月一日より翌年三月末日の間に限り運轉する。

△印は同じく十月から三月まで特等列車をつらね高敷寮臺の設備をつけてゐる。

○紀州有田郡廣村の防波堤

紀州湯淺港の南廣川の

一小流をへだて、廣村といふ町がある。昔は湯淺よりも榮えてゐた港であつたが、土地がやゝ低いので、徳川時代に何回となく津浪をうけた。寶永の津浪には湯淺村は五六〇戸の中二九二を流失し死者四人に過ぎなかつたのに、廣村は八五〇戸の中七〇〇戸まで流失死者一九二人に達し、ついで安政津浪には戸數四四一の中一二五戸を流失、死者三十人に達した。蓋し湯淺村は海面上二米以上の高さにあるが、廣は一般的に一米低い。處がこの安政の大津浪をうけた際、廣村に濱口梧陵といふ偉人がゐた。この人は今の山サの濱口儀兵衛(銚子の醬油屋)の祖父にあたる、濱口家は廣村の人であつて

元祿年間に銚子に出店をし醬油業を營んだのであるが、たとへ銚子の第一流の鉦當家になつても、やはり廣に本宅があつて、廣から離れはしなかつた。梧陵は安政元年三十五歳であつたが、其年の夏六月十五日に強震があり、越て十一月四日に再び地震があつた。この時は餘程きつかつたので皆々高地に避難したが、翌五日海全く風ぎ地震も來さうになかつたので人々は家に歸つたが、日没時に又もや激震があり、井水一時に枯れ、海上に遠雷の如き音がきこえた、この時梧陵はたゞ事ならずと考へて村民を立退かすことに努力し、村民をすべて避難せしめて、最後の一人となつて生命を全うしたが、やがて日がくれたので早速の氣轉で田の中の「ス、キ」(稻藪堆)に火をつけた。その御蔭で更らに生命をひるつたものが多かつた。つぎは飢饉を防ぐために、自ら奔走して隣村から年貢米五十石を借つてきて自分で炊出をした外、村の流失家屋の跡片付に對しても、秩序ある指圖をなし、前後五日間己を忘れて善後策に心を勞し、さしあたり復興のために玄米二百俵を寄附して、有志家の先例をひらき、翌三年正月までに家屋五十軒を新築して、或は貸し與へ或は無料で住はせ、資金を供し、農具を施してあらゆる目前の罹災者を慰めたが、一時のたゞの救護では、目前の事であつてと考へ、こゝに百年の大計を立てた。即彼は高二間半、長凡五百間、根幅十一間、上幅四間の大防波堤を獨力で築造せんことを企て、上書して其許可を得た。そこで二年春二月から工を起し、四五百

人の村民に生業を興へ、安政五年十二月まで凡四十七ヶ月、農民の閑に業を興へるやうにして三百七十間の現存の防波堤をこしらへ上げたのであつた。さうしてこれに松と槌を栽えたが、御蔭で大正二年の高浪の襲來には、其外方にある舊い防波堤は流されたが、この濱口堤は儼として廣村を守つたのである。蓋し餘澤の大なものといはねばなるまい。此後も猶少々の津浪ならば其害を免がれしめるに違ひないと考へる。

濱口は當時村人に濱口大明神と曰々に慕はれたので、小泉八雲の傳聞する所となり、彼の「佛陀の畑の落穂拾ひ」といふ書のうちに Living Good として外國へまで紹介されるに至つた。橋陵の息濱口擔當て英國留學中ロレッツ嬢の口よりハーソンのハマグチと擔との關係を訪ねらるゝに會し、その實子なるをつげて一座の驚嘆をうけし事さへありといふのである。

(今村博士談)

○日本品の濠洲市場進出に對する抗議

五月二十七日の倫敦タイムズにメルボルン通信として左の如く記した一九三二年下半年期に日本からの輸入は五割一分の増加で一大脅威を興へた。しかし日濠間の貿易は濠洲にとりて輸出超過である。即羊毛の日本への輸出は英本國以上に達するので、日本は濠洲の唯一の御得意であるから濠洲政府が英國貿易業者の保護策をとるか否やは不明である。けれども日本の綿製品の安賣は、一般織物の下落を來し毛織物をも壓迫してゐる日本の廉價なる綿製品は勿論、金物類・眼鏡類・ハンドバック・

電球・玩具・帽子・刷毛・スリッパ・護謨靴・陶磁器何れも安賣である。而も陶磁器の如きは有名英國品の模造が極めて多いので一九三三年九月一日以降輸入陶磁器は原産國標記を有すべきことにした位である。

かくて日本製品は安價と我製品の模造とにより二重の打撃を興へる。新規意匠・模様品といへども發賣後一二ヶ月にして其酷似日本模造品が我五割以下の廉價を以て市場に現はるゝの常態である。斯種競争は吾人の眞に脅威とする所にして獨り商業組織を破壊するのみでなく、英帝國內相互間の協調を覆すものである。當時日本の圓價は我二志に相當する所今や約一志三片に下落した。其結果、左なきだに生産費安價なる日本商品は更に競争力増加し、各國商品を壓倒するに至つた。如何なる國と雖も顧客國の利益を阻碍するが如き財政々策を執るを欲せざるは勿論なるも、今や世界は斯種競争に對して深甚考慮を拂はねばならなくなつたと考へる、故に濠洲政府も保護政策をとるべきであるが、日本商人は鋭敏だから利害關係の上から之が報復手段として羊毛の購入を他に轉ずることはしまい、とこういふ風に論じてゐる。この最後の一句は見のがしてはなるまい。

○大連の工業狀態

大連民政署管内昭和七年中の工業概況は、工場總數三百九十五、總生産額一億百四十萬圓に達し六年度の七千五百萬圓に比して三割六分を増した。これを

經營者國籍別に見ると日本人工場數二百三十三、生産額六千四百六千圓、滿洲人工場數百六十一、生産額四千三十二萬圓、日本人工場の方は生産額六割一分をしめる。この外にロシア人工場一、生産額二千三百八十圓がある。

職工數は日本人二千二百三十三人、滿洲人一萬八千九百五十人、鮮人十六、露人一、合計二萬一千二百七人に達し其延人員は五百七十六萬三千七百五十一人、内日本人六十三萬四千五百人、滿洲人五百十二萬三千六百九十四人である。

化學工業が其王座をしめ六千五百六十五萬圓からの生産で六割五分にあたり、油房業が特に有力である。機械工業これにつき、瓦斯・電氣・紡績工業が順に之についてゐる。之を表すすれば左の如し、

工業別	七年度	六年度
紡績工業	三、八八、〇〇〇圓	三、〇〇、〇〇〇圓
金屬工業	一、七四、〇〇〇	一、〇六、〇〇〇
機械工業	二、〇二、〇〇〇	三、二九、〇〇〇
窯業	三、三三、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇
化學工業	六、五五、〇〇〇	四、〇八、〇〇〇
内譯油房	三、九四、〇〇〇	四、三三、〇〇〇
其他	二、七五、〇〇〇	一、九三、〇〇〇
木材工業	一、三二、〇〇〇	八、〇〇、〇〇〇
印刷製本	一、〇四、〇〇〇	一、二二、〇〇〇
食料品工業	二、七五、〇〇〇	二、三三、〇〇〇

瓦斯と電氣	五、三七、〇〇〇	三、八三、〇〇〇
其他	四、四一、〇〇〇	一、九八、〇〇〇
合計	一〇、七八、〇〇〇	七、四三、〇〇〇

○九龍メリヤス工業

香港には從來殆ど工業の見るべきものが無かつたが、數年前より九龍方面に支那人のメリヤス工場が出来、一般向メリヤス及靴下を製造しはじめた。昭和六年對日ボイコットの勃發により、當地及廣東方面及華僑出稼の多い佛領印度支那・廣州灣・蘭領東印度・海峽植民地等に對する日本品の進出が不振を極めた結果、九龍の工場は俄に活潑となり昨年度は最盛二百軒からの工場が出来た。又其製品も改良されて、其輸出額は二百六、七十萬弗に上つた。

所が昨年夏以來の圓價下落のため、海外市場で華僑筋は日貨取扱にうつり、本邦品は次第に活潑に動いたために、九龍のメリヤスは次第に驅逐せらるゝに至り、目下百軒内外の製造場あるに過ぎない。しかしかうした小規模工業の彼地に發達するといふことは、日本の工業品に對するよい刺激になる。先進國といつて袖手してゐては遂にはまける時が出てくることを覺悟せなくてはならぬ。

○朝鮮の凍結採鹹法

專賣局では嚴寒地方に於ける採鹹法として、平北南市の鹽田二百十七町歩に對し、昭和五年

頃から凍結採鹹法なる獨特の方法を試験中であつたが、七年末から八年にかけて本格的に之を適用し、見事に成功を告げ

四、五、六の三箇月の探鹽期中には、普通方法によるよりも、一割乃至一割五分増の二千萬斤の鹽が確實に採れる見込みがついた。之によつて新規事業による南市の擴張鹽田二百六十六町歩に對しても、凍結探鹹法を適用することゝし、その結果南市だけでも約五千萬斤の鹽が取れることゝなり、平北方面一帯の需要は完全に充される譯である。

○朝鮮全羅南道の海苔

全羅南道主要物産の一たる乾

ノリは昨秋は、豫想された通り豊産で、検査も五月二十七日務安の十一回潮品を最後として各検査所を閉鎖した。その成績は實に三億五千枚の多きに達し、品質も大に改善向上し、不合格品も著しく減じた。之は養成方面では浮藻の普及と沖建の勵行と漁場整理の結果で、製造方面では原料豊富であつたのと、各生産者の自覺並に當局や各組合の指導宜しきを得た爲である。又製造上では薄抄品や抄穴が減少し、蕾の如きも一般に増加の趨勢を示し、検査の方も原料や青混入過度によるやむを得ないものを除く以外、非常に改良され、其生産

成績に至つては、本場だけに莞島郡が一億五千萬枚、高興郡が七千萬枚、長興の六千萬枚、海南の三千万枚、珍島の一千二百萬枚、麗水の九百萬枚、光陽の八百萬枚、康津の六百萬枚、務安の五百萬枚といふ順序である。

○朝鮮江原道のニッケル鑛

戰時鑛物として重用せ

られ、鐵合金其の他に用途の廣きニッケルは、今まで本邦版圖内には全然産出せざるものとされてゐたが、過般内地但馬地方に發見されたのに刺戟され、朝鮮でも業者の關心を惹いてゐたところ、最近江原道金化郡遠北面において、古林新治氏が有望なるニッケル鑛を發見、選鑛の結果品位も相當のものゝ判明したが、鑛業令中に包含されざるため、銅鑛として朝鮮總督府へ出願した。ニッケルは磁硫鐵鑛と共産するものであるが、今まで殆ど顧みられなかつた感がある。しかし近來は特殊鑛物への關心が深まつて、各種鑛物の探鑛が盛になり、今回のニッケル鑛發見もその結果と見られてゐる。

(朝鮮)

○享保以後の地理關係出版書目 大阪 (九)

書名

作者

板元

賣弘

出願許可

大阪湊口 新田細見圖

序文添加願出

松尾華堂(城州伏見)
香川圖徵(高麗橋二丁目)

はりまや九兵衛
(高麗橋一丁目)

天保十年八月
天保十年八月十九日

大湊一覽 一紙

川崎屋茂兵衛(炭屋町)

右同人

秋田屋良助(九之助町一丁目)

天保十年十月

諸商人道中記 一冊

松屋甚四郎(玉造上清水町) 右同人

秋田屋良助(九之助町一丁目) 天保十年十一月

【附記】 本書板行の出願に對し同年十二月四日北組惣會所に於て惣年寄永瀬七郎右衛門より「本書は御差障りの書に付絶板仰付らる」と申渡され板木を沒收せられたり。

大日本海陸勝景一覽 折本一冊 岡田春燈齋(京都)

右同人 藤屋徳兵衛 秋田屋良助(九之助町一丁目)

天保十年十一月 天保十一年正月廿一日

改正日本輿地路程全圖 折本一冊

再刻發行申出 右板元よりの申出でを本屋行司明組にて開届け板行

天保十年十二月五日

津ノ國北山廻り繪圖 新板發行申出

河内屋喜兵衛

天保十一年三月二十日

攝津國大繪圖 一帖

此度「猫間川」並に「天滿新堀川」増補發行申出

河内屋喜兵衛

天保十一年四月二十日

増補大坂町鑑 一冊

播磨屋喜六(本京橋町)

柏原屋清右衛門

天保十二年閏正月

増補大阪町鑑 一冊

播磨屋喜六(本京橋町)

柏原屋清右衛門

天保十二年閏正月

増補大坂町鑑 一冊

播磨屋喜六(本京橋町)

柏原屋清右衛門

天保十三年正月十九日

年中遊覽 難波めぐり 三ツ切本 一冊

河内屋太助

天保十二年七月

新板發行申出

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

浪花の賑 三冊

鹿の屋一禪

河内屋喜兵衛

嘉永四年十二月

紀州名所圖會 四篇 六冊

加納諸平

紀州家

安政二年二月二十二日

右賣弘人よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

河内屋太助 (唐物町四丁目)

嘉永四年十二月

西國三拾三所名所圖會 八冊 鹿之屋一禪 (難波村北之町)

〔附記〕 本書板行に對しては江戸表御改濟

河内屋太助 (唐物町四丁目)

嘉永五年正月三日
嘉永五年十二月三日

増補堺繪圖 細川寸三郎 (堺南宗寺境内)

河内屋久三郎 (堺九間町)

河内屋源七郎 (傳馬町)

嘉永五年二月
嘉永五年八月二十二日

大坂地圖(天保十五年に板行許可)
大坂細見之圖(弘化二年に板行許可)
大坂全圖(弘化四年に板行許可)
大阪指掌圖(弘化四年に板行許可)
大坂中繪圖(弘化四年に板行許可)
大坂指掌圖(弘化四年に板行許可)

今木屋市太郎 代判藤兵衛

嘉永五年五月二十三日

以上五種の書は先年大坂の書肆播磨屋九兵衛方にて板行せしも、當時諸仲間御差止の御趣意中なりき、其後右板木を今木屋市太郎方に買取りたるが、此度仲間再興に付先規の通り記帳ありしとの申出でにより其旨開届け置く。

備中國巡覽大繪圖 一枚摺 關立輔 (備中小田郡笠岡村) (河内屋喜兵衛) (大坂北久太郎町五丁目)

嘉永六年五月
嘉永六年十一月朔

増補河内國細見圖 (故人) 鴨井兵右衛門 曉晴翁(福井町) 灘屋高三(道修町五丁目)

代判又一郎

安政四年閏五月

〔附記〕 本書板行の義出願したるも慶應二年四月に至り願ひ下げとなる。

増大川便覽 折本 一冊 高嶋屋大次郎 (高麗橋三丁目)

播磨屋九兵衛 (道修町一丁目)

安政五年十二月

淡路嶋名所圖會 初編二冊 (故人) 曉晴翁 (大坂福井町)

河内屋喜兵衛(北久太郎町五丁目) 代判太助

慶應元年閏五月
慶應二年四月七日

松島廓之圖 西田屋作兵衛 (梅本町) (河内屋喜兵衛) (北久太郎町五丁目)

河内屋喜兵衛

明治元年十一月廿九日
明治元年十二月十四日

攝津兵庫圖 折本一冊 若林良助(兵庫湊町)

河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

明治二年二月二十日
明治二年三月八日

大阪町名一覽 一枚摺

豊田宇左衛門(南米屋町)

明治二年十一月十七日
明治二年十二月二十日

○第二十卷 第二號 村の地名正誤

頁行	正	誤	頁行	正	誤
一六	二八の下へハンマイバ削除	ハンマイバ加入四四の	二五	三	進上せし
一七	日向垣外	日向垣外	四	三方山	運上せし
二一	エノキダ	エノキダ	一五	御社宮司	御社宮司
二二	ソリ畑	メリ畑	一六	薬師大門	薬師大門
二三	ソリ畑	メリ畑	一八	ソリツカ	メリツカ
二四	後山	後山	二〇	櫻垣外	垣外
一三	一〇	シンロ	一〇	シンロ	シンロ
一五	一	宮所牧	一〇	宮所牧	宮所牧
一五	四	百々	四	百々	百々

○陸地測量部出版地圖目錄 (五) (昭和七年十二月二十五日出版)

新	十七號	太平	莊	一面	同	二五號	前	又	軒	他	拉	一	二一號	岩	化	營	子	一	面			
同	十八號	卡	倫	街	一面	同	三	號	長	岑	子	一	二二號	他	拉	營	子	一	面			
同	十九號	宮	路	河	一面	同	四	號	櫻	德	一	二三號	煙	土	道	一	面	一	面			
同	二十號	雙	陽	河	一面	同	五	號	公	主	嶺	一	二四號	露	力	屯	一	面	一	面		
同	二十一號	南	郡	河	一面	同	八	號	官	家	店	一	二五號	說	戶	營	子	一	面	一	面	
同	二十二號	農	公	館	安	一面	九	號	楊	家	城	子	一	二五號	赫	爾	蘇	一	面	一	面	
同	二十三號	小	合	隆	一	面	十	號	奉	化	一	二	二	掬	鹿	一	面	一	面	一	面	
同	二十四號	新	京	一	面	同	十	三	新	集	一	六	六	八	面	一	面	一	面	一	面	
同	二十五號	伊	通	一	面	同	十	四	隊	虎	屯	七	七	威	運	一	面	一	面	一	面	
同	十七號	公	合	勒	一	面	十	五	開	家	屯	八	八	開	甸	子	一	面	一	面	一	面
同	十八號	鎮	東	縣	一	面	十	六	後	巴	昌	九	九	營	盤	一	面	一	面	一	面	
同	十九號	寶	興	屯	一	面	十	七	白	云	昌	十	十	營	盤	一	面	一	面	一	面	
同	二十號	巴	拉	山	一	面	十	八	七	井	子	十	十	營	盤	一	面	一	面	一	面	
同	二十三號	太	木	站	一	面	十	九	溫	都	王	十	十	營	盤	一	面	一	面	一	面	
同	二十四號	涇	南	一	面	同	二	十	一	三	號	十	十	營	盤	一	面	一	面	一	面	